

令和3年度 美郷町立邑智中学校 総合的な学習の時間 全体計画

生徒の実態(◎強み ◆弱み)	学校教育目標	令和3年度 研究主題	保護者の願い
◎温かなふるさとで育まれたおおらかな人間性。 ◎恵まれたICT環境での学習。 ◆自分のために学ぶという意識が薄い。 ◆話す・伝えることが苦手。 ◆多様な他者との協働の機会が少ない。	「ふるさとを愛し、知・徳・体の調和のとれた 人間性豊かなみさとの子の育成」	自らの思いや考えを仲間とともに深め合い 夢に向かって歩む生徒の育成 ～ 伝え合う力を高め 深い学びに導く 授業のあり方の研究を通して ～	◎学習に自主的に取り組み、豊かな人生を送るための学力をつけてほしい。 ◎友達と仲良く、有意義な学校生活を送ってほしい。 ◎中学校卒業後の進路を適切に選択してほしい。
地域の実態	めざす生徒像	授業における生徒の姿	地域の願い
◎人が優しく、学校教育に協力的。 ◎豊かな自然がある。 ◎伝統的行事や歴史的遺産がある。 ◎過疎化や高齢化が進んでいる。	◎自分で計画を立て、実行する生徒 ◎自己の責任を自覚し、ひたむきにやりとげる生徒 ◎よりよい考えを出し合い、力を合わせ高まる生徒 ◎夢・目標に向かって根気強く努力する生徒	◎多様な他者との伝え合いや協働をとおして、課題を追究し、自己の考えを広げ深めている。 ◎習得した知識・技能を活用し、考えるための技法を用いて考えを整理し、必要に応じICTを効果的に用いながら、自分の意見を的確に伝え合おうとしている。	◎将来地域を担う人に育ててほしい。 ◎挨拶や礼儀など、気持ちのよいふるまいを身につけてほしい。 ◎ふるさとを愛し、人を大切にしてほしい。

総合的な学習の時間 第1の目標

邑智中学校 総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、地域のひとつのことに関わる横断的・総合的な学習を行うことを通して、多様な他者と協働しながらよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 自ら見いだした課題を見通しをもって多面的・多角的に考え調べる活動の過程で、適切に話すこと・聞くことや課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- 多様な他者と思いや考えを伝え合い、協働して課題に取り組むことを通して、考えたことをICTを活用しながら、根拠を明らかにして、工夫してまとめ、表現できるようにする。
- 主体的・協働的に調べ、考えを伝え合い、まとめたことを表現する学習や、地域について学んだことを自己の生き方につなげて考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。

総合的な学習の時間の内容

テーマ	地域と共に、自分の人生やふるさとの未来について考え、未来に向かう学習		
	ふるさとへの愛着を育む	ふるさとへの貢献意欲を育む	ふるさとのために行動・実践する力を育む
学年	第1学年(50時間)	第2学年(70時間)	第3学年(70時間)
探究課題	知る 「役場訪問」 ふるさとについて考える	発信 「地域のひとと良さの発見」 ふるさとの良さを伝える	提案・実践 「様々な人とのつながり」 地域の課題を解決する
「生き方」について考える	「人権学習」 よりよい世の中にするために、大切なことを学ぶ	「進路・職業学習」 自分の生き方について考える	「職場体験・みさと一」 自分自身の将来を考え、進路選択にいかす
知識及び技能	知識 ・地域には、豊かな自然環境やそれを生かした産業や特産物があることを知るとともに、過疎・高齢化による現状と課題を理解することができる。 ・様々な人権課題があることを知り、その解決に取り組む人々の願いや組織の活動について理解できる。	・地域の豊かな自然や伝統・文化、産業、そこに携わり地域に貢献している人々の姿などの地域の良さについて多面的・多角的に理解することができる。 ・身近な上級学校や職業の特色について知り、自己理解をもとに自分の生き方について考えることの大切さを理解できる。	・地域には、様々な課題があり、その解決のための取組があること、それに関わる人々の思いや願いを自分の生活と関連づけて理解することができる。 ・地域で働いている人の思いや願いを知り、自らの体験を通して働くことの意義について理解できる。
	技能 ・情報の収集・選択・整理・分析、まとめ、伝え合い等、様々な場面に応じて「要約学習」の技法や「思考ツール」を活用することができる。 ・相手や目的に応じて、より分かりやすく伝えられるよう表現を工夫できる。 ・伝え合いの中で、受けとめる側は、伝える側に対して自分の気づいたことや考えたことを的確に伝え返すことができる。	・相手や目的に応じて、デジタルとアナログのそれぞれの良さを生かしながら表現を工夫できる。 ・伝え合いの中で、受けとめる側は、伝える側が発表内容を深め、問題点に気づくことのできる「よい質問」をすることができる。	・受け手や目的、意図に応じて、伝える手段を選択し、効果的な表現を工夫できる。 ・伝え合いの中で、受けとめる側は、伝える側の学習成果の改善につながる「よいアドバイス」ができる。
探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力	探究的な学習のよさの理解 ・「ふるさと」や「生き方」に関する課題への理解は、そこに関わる様々な人たちの願いや組織との関係を探究的に学習をきたした成果であることに気づくことができる。	・「ふるさと」や「生き方」に関する課題への深い理解は、課題の解決に他者と協働したり、各教科等で身に付けた知識及び技能等を活用・発揮したりして学習をきたした成果であることに気づくことができる。	・将来の自分自身の「生き方」や「ふるさと」について深く考えることができたのは、課題の解決に多様な他者と協働しながら繰り返し探究的な学習をきたした成果であることに気づくことができる。
	課題の設定 ・地域や人権についての、小学校の学びを生かしながら、活動の意図や目的を明確にして課題を設定することができる。 ・解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。	・地域のよさや職業・進路先の特色に広く目を向けて、活動の意図や目的を明確にして課題を設定することができる。 ・解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。	・地域の実情に着目したり、自分の適性を生かしながら、活動の意図や目的を明確にして課題を設定することができる。 ・解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立て、状況に応じて見直すことができる。
情報の収集	・目的に応じて手段を選択し、情報を収集・蓄積できる。 ・複数の情報の中から、課題解決のために、他者の意見を参考に自分の考えに基づいて、必要な情報を取捨選択することができる。	・目的に応じて手段を選択し、発表場面での活用も意識しながら情報を収集・蓄積できる。 ・複数の情報の中から、課題解決のために、信頼性や明瞭性に基づいて、必要な情報を取捨選択することができる。	・目的に応じて手段を選択し、発表場面での活用も意識しながら情報を収集・蓄積し、必要に応じて情報の再収集を行うことができる。 ・多様な情報の中から、課題解決のために、重要度や代表性、実現可能性を考慮し情報の順位付けに基づいて、必要な情報を取捨選択することができる。
整理・分析	・考えるための技法を活用し、視点を定めて異なる情報を整理・分析し、理由や根拠を基に関係や傾向を明らかにすることができる。	・考えるための技法を活用し、多面的・多角的に多様な情報を整理・分析し、より確かな理由や根拠を基に情報を精査することができる。	・複数の考えるための技法を組み合わせ活用し、多面的・多角的に多様な情報や他者の考えを整理・分析し、より確かな理由や根拠を基に、他者の考えをもとに新たなアイデアを創造できる。
まとめ・表現	・相手や目的に応じてわかりやすく表現し、相手とのやりとりから必要に応じて補足して伝えることができる。 ・学習を振り返り、自己の成長を自覚し、学習や生活に生かしたり、地域への愛着を深めることができる。	・相手や目的に応じて要点を絞って表現し、相手とのやりとりから、気づいたことも含めてわかりやすく伝えることができる。 ・学習を振り返り、自己の成長を自覚し、学習や生活に生かしたり、地域への貢献意欲を高めたりすることができる。	・相手や目的、意図に応じて論理的に表現し、相手とのやりとりから、さらに考えを深めたことも含めてわかりやすく伝えることができる。 ・学習を振り返り、自己の進路選択や地域との関わり方など、自己の生き方について考えを深めることができる。
学びに向かう力、人間性等	・自分の意思や目標をもって、自他のよさを生かしながら仲間や協働して課題の解決に向けた探究活動に取り組むことができる。	・自分の意思や目標をもって、自他のよさを生かしながら仲間や地域の方と協働して課題の解決に向けた探究活動に取り組むことができる。	・自分の意思や目標をもって、自他のよさを生かしながら仲間や地域の方、大学生と協働して課題の解決に向けた探究活動に取り組むことができる。
自己理解・他者理解	・探究的な学習を通して自分の特徴やよさを理解するとともに、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重することができる。	・探究的な活動を通して、自己の生活や地域との関わりを見直し、自分の特徴や地域のよさを理解すると共に、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重することができる。	・探究的な活動を通して、自己の生活や地域との関わりを見直し、自分の特徴や地域のよさを理解すると共に、多様な他者の、それぞれの立場からの意見や考えを受け入れ尊重することができる。
将来展望・社会参画	・探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組むとともに、よりよい世の中にするために大切なことや、地域の未来について考えることができる。	・探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組むとともに、自分自身の生き方について考えたり、積極的に地域のよさを伝えることができる。	・探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組むとともに、自分自身の将来について考え進路選択にいかしたり、積極的に地域課題の解決に向けた実践に取り組むことができる。

他教科等で身につけた資質・能力

【学習活動】	【指導方法】	【指導体制】	【学習の評価】
・「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の各場面で、考えるための技法やICTを効果的に活用する。 ・多様な他者と協働して主体的に取り組む学習活動を積極的に進める。 ・まとめ、振り返りの機会を大切にし、生徒が自己の生き方について考える場面を重視する。	・単元や授業の導入では、学習課題を明確に提示し、課題意識をもった自主的、探究的な学習活動が展開できるようにする。 ・お互いに興味をもって伝えたいものや、多面的・多角的な視点のあるもの、試行錯誤が必要なもの、答えが一つでないもの等、生徒が追究する課題や教材を工夫する。 ・考えるための技法やICTを効果的に活用し、伝え合いを通して生徒が主体的に取り組めるよう単元計画を工夫する。	・総合的な学習の時間担当者が、学校全体の「総合的な学習の時間コーディネーター」として、各学年部との連携を図り、3年間を見通した学習を推進する。 ・地域学校支援コーディネーター、社会教育主事との連携により、地域のひと・もの・ことを積極的に活用する。 ・ICT支援員、学校司書との連携を図る。 ・町教育委員会、隣保館等、関係機関と連携を図る。 ・研究推進委員会による検討及び修正を行う。 ・研究部による調査・分析を行い、PDCAサイクルにいかす。	・学習による成果物やふりかえり等を通して生徒の成長を評価する。また、その記録を保管する。 ・個人の成長を励ます評価を行う。 ・授業中の評価言や価値付け、ワークシート等へのコメント等で生徒の学習改善につなげるとともに教師の指導改善に生かす。指導と評価の一体化を推進する。 ・保護者、地域等、外部評価を実施し活用する。 ・授業後の地域アドバイザーとの振り返りと評価の場面を設定する。